

鷲子山上神社祇園祭



7月19日、「鷺子山上神社祇園祭」が開催され、多くの見物客でにぎわいました。その当日の盛り上がりや祭りに関わった人たちの様子をお伝えします。

～ 伝統を受け継ぐ～

<実行委員長の川野和彦さんにインタビュー>



<5年ぶりの開催>

平成22年の開催から5年。東日本大震災の影響などもあり、4年に一度が5年ぶりの開催となりました。震災後、初めての開催なので、氏子をはじめ多くの人が待ちに待ったお祭りとなりました。

<祭りの特徴>

民衆に開放されたこのお祭りは、地域の人にとって誇りであり、またこの祭りが人々の繋がりを深めます。鷺子地域には、江戸から大正時代にかけて制作された6台の山車・屋台があります。鷺子彫りで飾られ、激しくも軽快なお囃子とともに、お祭り会場に引きつける勇壮な姿は必見です。

<開催にあたって苦労したこと>

神輿・山車・屋台は国道293号線を6kmにわたって運行します。昭和50年代までは交通量も少なく、支障はなかったのですが、年々車両が大型化し、いかに安全を確保して行くか苦心しました。

このため、今回は危険な場所を見直し、警察署や交通安全協会などの協力を得て、安全に楽しく開催できるよう心がけました。

<これから祭りの伝統を守っていくためには>

伝統は人から人へ受け継がれます。今、この地域では少子高齢化が進行していますが、祭りに携わるすべての人が祭りを続けていきたいと願っていますので、これが大きな力になります。またこの祭りは民衆に開放された祭りですので、鷺子地域以外の協力者も得ながら、山車や屋台の運行、お囃子などを伝えていくことも一つの方法だと思っています。

<当日までの準備やお囃子の練習>



神輿の渡御



組から組へ神輿の引渡し



神輿の安全な渡御を祈願



鷲子山上神社祇園祭では、造花や
ました。また神社から担ぎ出された神輿は、鳥居
を渡御しました。

そして日暮れが迫る頃、山車や屋台が祭礼会場
登場すると、大きな歓声が上がりました。最後に
雨の中、5年ぶりの夏祭りは大きな盛り上がり

みちの駅みわでお囃子を披露



ちびっ子もお手伝い



鳥居士組の屋台



花輪組の屋台



宿組



袋木組



雨の中、山車と屋台が勢揃い

提灯で飾り付けられた6台の山車や屋台が巡行し土組から下郷組まで、6つの組の担ぎ手が各地区への「引きつけ」のために集結。会場へ一台ずつお囃子の競演である「ぶんぬき」で祭りは最高潮に見せ、多くの観客を楽しませました。



仲島組



花輪組



下郷組